



- 永代共養墓について
- ぶつぶつ雑記ブログ
- 真言宗について
- 金剛院イベント情報
- 金剛院 建築計画
- しいなまち・みとら
- 唱えてみよう!
- 仏教一年生
- 金剛院News
- メールを送る
- こんごういんキッズ!
- たいけんしてみよう!
- まんが小坊主くん!
- 金剛院について
- おすすめリンク集
- メディアで紹介
- 東京お寺めぐり
- ぶつぐらへ
- 金剛院の四季
- バックナンバー
- ほほほのれしび
- ふしぎな密教法具
- 地図・アクセス
- サイトマップ

 検索

エッセイ 仏教一年生

- 第37回 [「智の器」としてのお寺の面白さ](#)
- 第36回 [日食メガネと雨男](#)
- 第35回 [東日本大震災一周年に想うこと](#)
- 第34回 [インドマジックで被災地に笑顔を「2」](#)
- 第33回 [インドマジックで被災地に笑顔を「1」](#)
- 第31回 [井戸の話](#)
- 第30回 [五筆和尚伝説](#)
- 第29回 [縁の下をささえる人々](#)
- 第28回 [日本人、最高!](#)
- 第27回 [人間と占い](#)
- 第26回 [空海さんの謎](#)
- 第25回 [私の知らない私](#)
- 第24回 [記憶と感情](#)
- 第23回 [美人病にかかる\(後編\)](#)
- 第22回 [美人病にかかる\(前編\)](#)
- 第21回 [四億年の引きこもり](#)
- 第20回 [年齢を隠したがる人たち](#)
- 第19回 [若い時の苦労は買ってでもしろ](#)
- 第18回 [子離れの季節](#)
- 第17回 [35年目の回窓会](#)
- 第16回 [不老不死のお酒](#)
- 第15回 [アンチエイジング](#)
- 第14回 [女子力不足](#)
- 第13回 [仏のレッスン](#)
- 第12回 [母と子をつなぐ道](#)
- 第11回 [座敷わらし](#)
- 第10回 [夢のお告げ](#)
- 第9回 [犬に引かれて](#)
- 第8回 [生まれ変わり](#)
- 第7回 [お葬式の意味](#)
- 第6回 [不思議なご縁](#)
- 第5回 [生きるための勇気](#)
- 第4回 [祖母の形見](#)

仏教一年生

山田真美・著



作家、日印芸術研究所言語センター長の山田真美さんの連載です。

[プロフィール紹介](#)

第31回 井戸の話

BI 0 チェック いいね! 1 Tweet

先日、見知らぬ初老の男性がふらりと我が家にやってきました。男性は門の外に立つと、庭に出ていたうちの家族に向かっていきなり、

「すみません、おたくに井戸はありますか」

と尋ねてきたそうです。

あいにく家族は急ぎの用事があって出かけるところだったので、ゆっくり会話する暇がありません。「いいえ、井戸はありませんよ」と返事をしたところ、彼は「そうですか。どうもありがとうございました」とだけ言い残して立ち去ったということでした。

実はこのとき、家のなかにいた私にも男性の声は窓越しに聞こえていたのですが、(水道局の人がきたのかな)ぐらいに思って、気にも止めなかったのです。ところが、あとで家族に聞いたところ、その人は「水道局の者です」とは名乗らなかったとのこと。

ちなみに、私が住んでいる場所は東京の中心部。エリアとしては新宿のすぐ近くにあつて、わりと静かな住宅街です。

こんな大都会に住んでいる人に向かっていきなり「井戸はありますか」と聞いてくるなんて、場違いというか何というか、さながらフランス料理店でマーボー豆腐を注文するぐらいのミスマッチ。

一体あれはなんだったのだろう、誰が何のために井戸の有無など聞きにきたのか。その晩の我が家は、井戸の話題でひとしきり賑わったのでした。

さてこの一件があってから、私の胸にはひとつの素朴な疑問がわいてきました。つまり「東京23区内でいまだに井戸水を使って生活している人が、果たして本当にいるのだろうか」という疑問です。

都心にある井戸について私が真っ先に思い出したのは、明治神宮にある“清正井(きよまさのいど)”。虎退治で有名な加藤清正によって掘られたといわれる井戸です。昨今のパワースポットブームで注目を集め、“清正井”の写真を携帯の待ち受け画面にしておくと運気がアップするらしいと噂になったために、連日、長蛇の列ができていますとい

- [第3回 ありがとうの輪](#)
- [第2回 お釈迦さまのお顔](#)
- [第1回 算数と仏教](#)
- [仏教一年生 山田真美・著](#)

営業管理の鍵
は名刺にあり

ツールを活用して
顧客データや商談
内容を簡単に管理
できる環境を構築！

jp.sansan.com



う井戸です。しかし、これほどメジャーになった“清正井”ですら一時は枯れ井戸になる危機があったそうで、1920年(大正9年)に神宮を造営した際には、

「まわりの木を伐採・移し替えたら一時水が枯渇したので、またあわてて樹木を植え移し戻したら元のように水が出始めた」(明治神宮の公式サイトより抜粋)

とのこと。

このことからわかるように、井戸というものは周囲の樹木をちょっといじっただけでも枯れてしまう可能性があるわけですね。

そのことを考えたうえで現在の東京23区を見渡せば、至るところに建物が林立し、地表という地表はアスファルトでふさがれ、地下にも縦横に鉄道が走っています。

このような場所で——お寺や神社のように特別な場所ならいざ知らず——ふつうの家庭がいまどき「井戸」を維持するなんて、とても無理じゃないか。そう、私は思ったわけです。

ところがインターネットの検索サイトに「東京23区」「井戸」のキーワードを入れて調べてみたところ、驚いたことに都心にある現役の井戸の情報がいくつも出てきたではありませんか。

なかでも印象的なのは、「[東京版:井戸のある風景100選](#)」というサイトでしょう。

<http://ido100.ido-jin.net/tokyo.html>

そこには、東京のどまんなかで今も活躍している井戸の写真が掲載されているのですが、その内容が実に濃いのです。

たとえば、雑司ヶ谷霊園近くのお花屋さんの前にある井戸。ここは池袋のサンシャイン60にほど近い、文字どおりの大都会ですが、このお花屋さんでは今でも井戸水で淹れたお茶をお客さまに出していらっしゃり、それはまろやかなお味だそう。

また、「早大正門」と書かれたバス停の横にも、堂々たる現役の井戸が鎮座しているようです。毎日この横を通っている早稲田大学の学生さんたちは、果たしてこの井戸の存在に気づいているでしょうか。

さらに、各国大使館が建ち並ぶおしゃれな街・元麻布には、弘法大師空海によって開かれたとされる珍しい自噴井(地下水が人の力によらず自然に地上へ湧き出る井戸)がひっそりとたたずんでいます。関東大震災や第二次大戦中に被災した人々の命を救った、まさに歴史の証人のような井戸。今も現役だそうです。

ほかにもたくさんの井戸が紹介されていましたが、そのどれもが「こんな大都会で、よくぞ今日まで無事に生き残ってくれました」と、思わず感謝の言葉を捧げたいくらい懐かしい姿なのです。

言うまでもないことですが、水がなければ生き物は1日たりとも生きていけません。だから、安全な水を確保することは、人類にとっては常に死活問題でした。

ところが日本では、ほんの数十年間で蛇口をひねればきれいな水が出てくる生活があたりまえになってしまい、水のありがたさが非常にわかりにくくなってしまった。生活の中から井戸が消えたことによって、見えなくなってしまったものが少なくないように思います。

たとえば、ここに一本の井戸があるとしましょう。さらに何軒か先の家にも、そのまた何軒か先の家にも、それぞれ井戸があるとします。

その場合、一本一本の井戸はあたかも単独で存在しているように見えますが、地中では大きな水脈に沿ってそれぞれの井戸が連動し、つながっています。

もしも誰かが勝手に自分の家の井戸を埋めてしまえば、その結果として上流の井戸は

あふれ、下流の井戸は枯れてしまうでしょう。そのようなことが起こらないように、昔は地域全体をつかさどる人がいて、すべての井戸をしっかり管理していたと聞きます。また、井戸のそばで汚いものを捨てたりすれば、それが水に混入して疫病の原因となります。そのようなことがないように、人々は井戸を「神が宿る場所」として大切にしました。ところが肝心の井戸を埋めてしまったために、私たちの心のなかから「自然を尊ぶ心」や「隣近所の人とのつながり」が急速に失われてしまいました。もちろん、川に関しても全く同じことが言えるでしょう。

ここからはあくまでも推測ですが、「おたくに井戸はありますか」と尋ねにやってきた、あの初老の男性は、もしかしたら(私が存じ上げないだけで)同じ町にお住まいの方だったのかも知れません。

男性のおたくでは、このたび古くなった家を新築することになり、やむなく庭の片隅にある井戸を埋めることになった。しかし埋めてしまう前に、「うちで井戸を埋めることによって、おたくに迷惑がかかることはありませんか」と、わざわざ尋ねに来てくれたのだ。……考えすぎかも知れませんが、そういう可能性もまったくのゼロではないような気がします。

大都会のまんなかに現役の井戸が残っているように、大都会に住む人のなかにも、そういう温かい気持ちは残っているのではないか。いや、残っていてほしい。「おたくに井戸はありますか」という謎の一言をきっかけに、私は色々なことを深く考えさせられているのです。

◀ [第30回 五筆和尚伝説](#) [第33回 インドマジックで被災地に笑顔を](#)

[1] ▶

山田 真美 (やまだ・まみ) プロフィール紹介

作家、日印芸術研究所言語センター長。密教学修士(高野山大学)。現在、お茶の水女子大学大学院博士課程後期在学中。1960年長野市生まれ。明治学院大学卒業後、ニュー・サウス・ウェールズ大学(豪)でマッコウクジラの回遊を研究。その後インド政府の招聘でヒンドゥー神話を調査研究。1996年より6年間ニューデリー在住。

主な著書にダライ・ラマ法王へのインタビューも収録した『死との対話』、ベストセラーとなった『ブースケとパンダの英語でスパイ大作戦』など。

訳書に第二次世界大戦の秘史を扱った『生きて虜囚の辱めを受けず』。

長年にわたりインドを日本に紹介してきた功績を認められ2007年、インド国立文学アカデミーより世界で3人目となるドクター・アーナンダ・クマラスワミ・フェローシップを受ける。

財団法人日印協会理事。日本文化デザインフォーラム、日本蜘蛛学会、宇宙作家クラブ会員。国立天文台広報普及委員会委員。



山田真美 公式ホームページ: <http://www.yamadamami.com/>

SAP HANAの価値を最大化

IBM Power Systemsが可能にする トランザクション、分析、予測の同時実行 ibm.comへ進む



[▲このページの先頭へ](#)



© 2002-2016

真言宗豊山派 金剛院

[永代供養墓 密厳霊塔](#)

[しいなまち みとら](#)

[こんごういんキッズ](#)

[メディアで紹介](#)

[ぶつぶつ雑記ブログ](#)

[唱えてみよう!](#)

[ないけんしてみよう!](#)

[東京お寺めぐり](#)

[ばばばのレシピ](#)

[真言宗について](#)

[仏教いちねんせい](#)

[まんが 小坊主くん!](#)

[ぶつ仏クイズ](#)

[ふしぎな密教法具](#)

[金剛院イベント情報](#)

[金剛院NewS](#)

[金剛院について](#)

[金剛院の四季](#)

[地図・アクセス](#)

[メールを送る](#)

[おすすめリンク集](#)

[バックナンバー](#)

[サイトマップ](#)

もうすぐ、食えなくなる仕事

人から仕事を奪う3つの大きな原因とは? directsales.jpへ進む

